

2021年4月11日(日)

老球の細道604号

「会津バスケットボール協会」2021年度荒野のスタート

会津バスケットボール協会 室井 富仁

新型コロナの感染者数に毎日一喜一憂しているうちに、いつの間にか桜が満開になっていた。今年もまた春が来た。桜が咲く頃になると必ず口ずさむ歌がある。「明日ありと思う心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものかは」。親鸞が9歳の時に作った歌である。出家しようと慈円和尚の元へ行ったが、既に夜も更けていたので慈円和尚が「今夜はとりあえず休め」と言ったところ、この歌を詠ったと言われる。親鸞の心の内は、今は盛大に咲き誇っていても、夜半に嵐が吹けば桜は一瞬にして散ってしまう。世は無常であって、やるべきことは必ずできる時にやっておかなければならない。人間のことを桜に例えて戒めた歌である。

現役教員の頃、新年度を迎え桜が咲く季節になると、授業や部活のスタート時にはよくこの親鸞の歌を生徒たちに話したものである。人生の無常迅速を教え、そして「明日できることは今日無理してするな」と物事をすぐに先送りする私自身の戒めのために・・・。

本日2021年度会津バスケットボール協会総会(縮小開催)が無事開催された。昨年はコロナ禍のためにバスケットボール協会の関わる行事がことごとく中止、延期、規模縮小と不自由な状態を余儀なくさせられた。そんな中でも、U-12(ミニ)で男子塩川ミニが県大会優勝、松山ミニがベスト4、U-18においては若松商業男子がウインターカップ県予選でベスト4の成績を残して協会を元気にしてくれた。関係者の尽力に敬意を表したい。

現在バスケットボール協会は数年前からのJBA機構改革により、毎年のように色々なシステムが変更され、なかなか落ち着かない状況にある。そこに昨年から新型コロナが加わり、今までにない困難な状況に置かれている。ピンチはチャンス、「コロナだから止めよう」ではなく、できることを、できる時に、できる範囲で、できる人たちが力を合わせて協会行事を粛々とこなしていくことが必要である。もちろん安全、安心に最大の配慮をしながら。

昨年はこの協会総会も懇親会も開催できず、色々な大会に顔を出しても役員や指導者の顔もわからない状態であった。また送別会も行うこともできず、誰が異動したのかもはっきりしない。しかし、今年は縮小開催といえども、対面で会議が開けて、皆で頑張っているという話し合いができた。役員も顔ぶれも確認できた。賽は投げられた。

改めて会津バスケットボール協会の使命を確認したい。大会、行事の開催、各カテゴリーの強化、普及の3つであると思う。この目標を達成するために特に重要なことは、指導者、審判員の育成、向上である。この点で、当地区には県協会指導者育成委員長の星博之先生(若松商)と県審判長の芳賀聡氏(会津若松市役所)が存在する。二人の強力なリーダーシップで当地区の日常が常に全国レベルであるよう火をつけてほしい。

最後に、現在は協会などの組織が社会的に注目される。常に組織の3原則を意識した活動が必要。①ガバナンス②コンプライアンス③アカウンタビリティである。協会に関わる全ての人がバスケットボールを通して夢を持ち豊かで刺激的な人生を送ることを切に願う。